

平成29年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

74

福岡県立八女高等学校長 印

その1

学校経営計画 ( 4 月 )		評価 (3月)		
学校教育目標	「質実剛健」の校訓を踏まえ、志を高く掲げて社会に貢献する有意な人間を育成する。 ①目指す生徒像 豊かな心とたくましく生きる力を備えた生徒 ②目指す教師像 生徒のよさを見出し伸ばすことのできる教師 (能力、適性、可能性、性格 等々)		A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
学校教育目標を『「質実剛健」の校訓を踏まえ、志を高く掲げて社会に貢献する有意な人間を育成する。』とし、二年が経過した。全職員の共通理解のもと年度重点目標をほぼ達成することができた。 本年度も、引き続き全職員が総力を挙げ教育活動に邁進するとによって地域に信頼される魅力ある学校づくりを推進する。	(1) 百年を超える歴史と伝統を大切に、師弟同行の精神で厳しくも親身な指導を実践する。	「鍛える」をモットーに、教師と生徒が常に一体になった愛情と信頼に満ちた日々の教育実践を通して、真の高校教育実現を図る。		
	(2) 「文武両道」の精神のもと、基本的な生活習慣を確立し自己管理能力を育む。	挨拶、清掃、時間厳守など基本的な生活習慣を身につけさせ、安全指導や自己管理能力を高める指導の充実を図る。		
	(3) 基礎・基本を定着させ、「なぜ学ぶのか」を問い、意欲的に学ぶ態度を涵養する。	生徒一人ひとりが具体的目標を設定し、その達成に向け最後まで粘り強く取り組み、学力を向上させる指導の充実を図る。		
	(4) 自分を大切にするとともに、他人を思いやる豊かな心を育む。	実体験を通して感謝の心を育み、いじめを許さない積極的な生徒指導を推進するとともに、心身の健康増進を図る。		
	(5) 一人ひとりの適正・能力を伸ばし、未来を拓くキャリア教育を推進する。	個々の生徒の実態や進路希望に応じたきめ細やかな指導の工夫・改善を図るとともに、基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を図る。		
	(6) 学校・家庭・地域の連携強化を図り、小・中学校へ積極的に本校教育活動の広報を行う。	積極的な広報活動を展開し、家庭や地域との連携・協力体制を築き、PTA・同窓会等の学校支援諸団体との連携を深める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教科指導 (校内研修)	校内における各研修と授業研究を推進する。	本校の教育目標、各分掌の重点目標を達成するために必要な研修を実施し、指導力の向上を図る。	A	・1学期に3回、2学期に2回の研修会を実施した。次年度も現代の教育事情と本校の現状に即した有意義な研修会を実施する。 ・常勤講師の研究授業については、採用試験に支障の無いよう実施時期を検討する。  ・下校時間については改善されているが徹底はできていないため、部活動及びクラスでの指導を継続的に行う。  ・「学習と生活の実態調査」を年5回実施したが、1・2年生は特に意識を高く持たせ、さらに学習時間を確保させていく必要がある。
		主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善を推進する。研究授業の指導案、研究協議については研究紀要に掲載し、さらなる授業改善に生かす。	B	
	家庭学習を質・量ともに充実させ、「質の高い文武両道」を実践する。	学校生活を通して基本的な生活習慣を身につけさせ、下校時間を厳守させることで家庭学習時間の確保を図り、質の高い文武両道を目指す。	B	
		家庭学習時間は、1・2年生の平日150分、3年生の平日200分以上、休日は1・2年生300分、3年生400分以上を達成させる。	B	

		<p>定期考査一週間前を「考査集中期間」とし、考査準備に専念させる。</p> <p>学習と部活動の両立を図らせるため、学年や部活動単位の学習会を奨励する。</p> <p>学期評点で欠点を保有する生徒に対しては、「学力向上指導」を行い、該当学期の学習内容の補充を行う。また、学業成績不振者及び保護者に対する「成績向上保護者会」を、年2回（1・2年は11月と2月、3年は9月と11月）開催して、生徒全員の全単位修得を目指す。</p> <p>朝礼や終礼における担任講話の時間を確保する。</p>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査期間中の特別練習も練習時間を厳守させることが必要である。</li> <li>・各教科の補講等の指導により、「学力向上指導」と「成績向上保護者会」の対象者は減少傾向にある。今後もさらに減らしていけるように指導を行う。</li> </ul>
	生徒の実態に応じた評価方法及びカリキュラムの検討を行う。	<p>「教育課程検討委員会」を実施し、学習指導要領改訂を見据え、本校生徒に応じたカリキュラムを検討する。</p> <p>次年度観点別評価を実施するために、年間を通して試行しながら検討し、計画していく。</p> <p>コース説明会を2回実施して、生徒の希望進路の実現を目指す。（1学期は生徒のみ、2学期は生徒および保護者）</p>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領改訂を見据えたカリキュラムについて、各教科で検討していく。</li> <li>・「観点別評価」の試行期間として、1年間各教科で検討し、意見交換を行った。今後、授業における効果的な観点別評価の方法と観点別に評価可能な考査問題の作成について検討していく必要がある。</li> </ul>
	幅広い学力の生徒に対応した「できる」授業を実践する。	<p>学習方法のガイダンスや定期考査に向けた指導を各教科で連携して行い、定期考査の学習が真の学力向上につながるように授業を充実させる。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開を学校全体で推進する。</p> <p>「朝のドリル」「朝の自学」を実施し、基礎基本を確実に身につけさせる。</p> <p>教室の環境整備（後方棚の整理等）、授業開始時の躰指導（服装・挨拶等）を徹底することで、緊張感のある授業を行う。</p>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査問題については、観点別評価に基づいた考査問題・新入試制度に対応した考査問題を各教科で検討する。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」についての職員研修を実施し、その概念や方法を職員全体で共有できた。次年度は観点別評価実施に伴い、さらなる授業改善に努めていく必要がある。</li> <li>・「朝のドリル」「朝の自学」「朝の読書」については、さらに効果を高めるために内容等について改善していく必要がある。</li> </ul>
	1年間出席皆勤生徒7割以上を達成させる。	<p>各クラスにクラス目標を掲げ、クラスの連帯感を高めるとともに、出席皆勤生徒を奨励して、年度末に表彰する。</p> <p>各学期（1・2学期）の二者面談期間を充実させ、生徒への適切な指導を行うとともに、月毎に出席簿の点検及び出欠統計一覧を作成し、課題を抱える生徒への早期対応に努める。</p>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・無欠率が昨年度より高くなっている。学校全体で出席皆勤への意識をさらに高める指導を継続する。</li> <li>・出席簿の記入の仕方は年度当初に確認して、さらに徹底する。</li> </ul>
	広報活動を活性化し、入学者選抜の倍率1.3倍以上を達成させる。	<p>中学校での進路説明会において、本校および本校生の魅力をアピールし、本校の広報活動に努める。</p> <p>塾に向いたり、塾関係者を招いたりして、本校に対する理解を深めてもらう。</p> <p>学校開放を奨励し、中学生体験入学の内容をさらに充実させ、中学生・保護者に対し、本校教育活動への理解を図る。</p>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区内の中学校を年間6回訪問し情報交換や広報活動を行った。9月の体験入学の参加者は、昨年度より50名増加した。次年度もさらに充実したものとなるよう改善していく。</li> <li>・中学校（14校）の学校説明会に参加し、中学校PTA（2校）の訪問を受け入れ、塾関係者対象の学校説明会を行った。本校の特長を十分に理解してもらい本校と生徒の良さを効果的に伝えることができた。</li> </ul>
生徒指導	八女高校に誇りを持ち、謙虚・感謝・思いやり・自律の心をもつ生徒の育成	<p>「校門一礼」を奨励し、感謝の心を育み、心のこもった挨拶ができる生徒を育成する。</p> <p>日々の授業や清掃活動に真摯な態度で臨ませることにより、謙虚・感謝の心を育成する。</p> <p>「奉仕活動」等の体験活動やいじめについてのホームルーム等を通して、相手の立場や気持ちを尊重させ、一人ひとりを大切に思いやりの心を育成する。</p> <p>全職員で共通認識のもと、服装・頭髪等の指導を行い、「質素・清潔・端正」な身だしなみに努める。</p>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には良好であったが、「挨拶運動」の回数を増やし徹底を図る。生徒会や応援団を中心に取り組んでいく。</li> <li>・日々の指導もあり、「謙虚さ」や「感謝の心」の育成においては一定の成果があった。継続して指導する。</li> <li>・全体的に良好であった。次年度も全学年で基準を確認した上で指導回数や実施時期を調整していく。</li> </ul>

	「質実剛健」の校訓のもと、自ら考え、主体的に行動する力をもつ生徒の育成	「非行防止教室」や日頃のホームルーム・集会等の教育活動を通して規範意識を向上させ、ルールやマナーの大切さを理解して主体的に行動できる生徒を育成する。	A	A	A	・ルールやマナーの大切さについては十分に理解させることができ規範意識の向上に繋がった。
		生徒会活動・各種委員会活動の充実を図り、生徒一人ひとりが学校行事に積極的に参加することにより、自主・自立の精神を涵養する。	A			・下校時間の厳守については改善されたと思われるので、家庭学習時間の確保に繋げるよう各部活動で機会あるごとに注意喚起を行っていく。
	基本的な生活習慣を身に付け、下校時間の厳守により家庭学習時間の確保を図り、質の高い文武両道を目指す。	B	・退部した生徒に対しては顧問と担任で連携を図りながら再入部に繋げていく。			
	部活動加入率90%以上を目指すとともに、各活動を通して生徒の自己指導能力を育み、人間形成を図る。また、退部者の情報を共有し早期の対応に努める。	B	・部活動では、全国大会に2部活、九州大会に3部活、県大会に10部活が出場を決め、昨年度に比べて増加した。次年度も多くの部活動で上位入賞を目指す。			
	各部活動等による上位入賞を目指す。3部活で全国大会出場5部活で九州大会出場、12部活で県大会出場を目指す。	B				
	全職員で情報を共有し、連携して統一した指導を行うことで、校外内における問題行動「0」を目指す。	A	・問題行動については、引き続き生徒指導課および学年で情報を共有し指導にあたる。			
	交通安全ならびに安全管理の意識の高揚	交通マナーの意識を向上させ、交通事故「0」を目指す。特に、バイク通学者、バイク免許取得者、自転車通学者に対して、それぞれの指導を行い安全意識の高揚を図る。	B	A	A	・バイク通学者緊急集会を開くなど継続した指導を行ったが、前後期ともに事故が増加した。次年度は機会あるごとに交通安全の啓発を粘り強く行っていく。 →昨年度(17)→昨年度(5)→今年度(20)
		部活動顧問における監督の徹底を図り、事故やケガの防止や早期対応に努める。	A			・養護教諭等と連携を図りながら各部活動でしっかりと対応ができた。
		不審者情報の速やかな提供や危機管理マニュアルの活用により安全対策を図る。	A			・不審者情報は確実に提供した。また、危機管理マニュアルを活用し安全対策も講じた。
進路指導	生徒の社会性・自己肯定感を高めるとともに、早期からの進路意識の高揚を図る。	「出前講座」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させる。	A	A	A	・「出前講座」については、大学との連携により生徒の進路意識の高揚に繋がった。しかし、講座によっては生徒の実態に合致しないものもあり次年度は検討する。
		早期からの体系的な小論文指導と、各学期1回の進路希望調査で、生徒の進路意識を高める。	A			・生徒の「小論文」対策に対する意識は高くなった。次年度へ向け教員に対する小論文指導のための研修を実施する。
		全学年においてスタディーサポートを実施することを通して、学校全体や生徒個人の課題を職員全体で共有・分析し、生徒への進路指導の改善を図る。	B			・集会等において進路意識を高める講話が実施できた。次年度も時期を考慮しながら適切な講話を行いたい。
		「とびかた」や集会での講話等を通じて、自分のあり方を見つめさせるとともに、進路意識の高揚を図る。	A			・「総合的な学習の時間」は各学年とも、若干内容を変更しながら計画的に実施できた。次年度から「進路サポート」を活用した「探究学習」を導入していく。
		「総合的な学習の時間」についてはキャリア教育の視点から、3年間を見通した系統的な内容で実施するとともに、更なる内容の検討を行う。	B			
	課外・講座・土曜セミナーの充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。	課外については、7時40分登校の徹底を図り、遅刻・欠席者に対しては学年と連携し、指導を行う。	B	A	A	・土曜セミナーでは、各教科とも実践的な指導ができた。公欠者に対する指導に対しても学年と連携し、課題内容が過度にならないように次年度も各学年・教科と連携していく。
		土曜セミナーについては、模試や入試に対応できる実践的な指導を各教科に依頼・実施するとともに、学年と連携して公欠者の指導を行う。	A			・近年の出題傾向に特化した課外授業が実施できた。特に3年生に対しては、夏季講座・冬季講座の一部を質問の時間や自学時間に切り替え実施した。今後も生徒の自発的な学習を促すために継続していきたい。
	土曜セミナーについては、模試に対応できる実践的な指導を各教科に依頼・実施するとともに、学年と連携して公欠者の指導入試の多様化に対応した課外授業を検討・実施する。	A				

	<p>模擬試験を十分に活用し、習熟度や進路に応じた指導を通して、生徒の第1希望進路の実現を目指す。</p>	<p>国公立大100名以上、公務員コース全員の合格を目指す。(九州大以上の難関国立大合格者10名以上、国公立大の推薦入試での合格者15名以上)</p> <p>進学模試の偏差値については、3(5)教科総合において、1・2年は国公立大合格の目安である進研模試54以上に各学年100名以上、3年は50以上に100名以上を目指し、下位層(偏差値50未満)を50名以下に減らす。1・2年の習熟クラスについては、3(5)教科総合で平均偏差値63を目標とする。</p> <p>習熟度別クラスの特徴を最大限活かし、講話等を通して九州大以上の志望者を増やすなど高い志をもった生徒を育成する。また、ハイレベル模試などを積極的に受験させ、クラス内で切磋琢磨できる環境を醸成する。そして、各学年・各教科による事後指導を行い、学力の向上を図る。</p> <p>模試分析会や出願校検討会を定例化し、学年・分掌・教科が協調して迅速に対策を講じられるようにする。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>B</p>	<p>・本年度編制した公務員クラスでは、多くの合格者を出すことができた。 (国家一般1名、税務職1名、福岡県職4名、筑後市職1名等)</p> <p>・防大入試の合格率は近年にない成果を出し、私大入試では過去最高の合格率を出した大学もあった。国公立大学入試では推薦入試合格者は6名と一定の成果は出た。また、国公立大一般入試では九州大学、熊本大学、佐賀大学等昨年を上回る成果を達成することができた。今後、A0・推薦入試を重視する大学が増えていくため、その対策を含め、知識のみならず思考力・判断力等を重視した指導を行っていく必要がある。</p> <p>・ハイレベル模試(2年生)や大学別プレテスト(3年)等の受験を奨励し、高い志を持った生徒の育成に努めたが結果が返ってくるまでの期間が長く、十分な事後指導ができなかった。次年度は、事後指導を徹底したい。</p> <p>・1年生では冬季講座後に成績上位者の指導を行った。今後も学年や教科と連携し効果的な対策を講じていきたい。</p>
<p>保健</p>	<p>生徒の心身の健康の保持増進</p> <p>学校安全及び環境衛生の整備</p> <p>美化活動の充実</p>	<p>日常的な健康観察と、主な行事前の保健調査の実施で心身の健康状態の把握を行う。</p> <p>健康観察をもとに、個への対応と、全体における感染症等の予防や対策を図る。</p> <p>教育相談委員会を定期的に開催し、「気になる生徒」に関する情報を共有する。</p> <p>教育相談を計画的に実施し、生徒・保護者の悩みに対応する。</p> <p>健康診断や教育相談の結果を受け、保護者及び関係専門機関と連携し対応する。</p> <p>健康教育講演会を実施し、生徒自身の自己管理能力の向上を図る。</p> <p>生徒のけがや病気に対する、適切な処置と対応を行う。</p> <p>学校管理下での災害状況を全職員に提示し、防止に役立てる。</p> <p>日常の安全・衛生面の点検・検査及び改善を適切に行う。</p> <p>学校薬剤師の指導のもと、学校環境衛生の整備に努める。</p> <p>生徒保健委員会活動に主体的に取り組ませ、成果を文化部発表会で発表させる。</p> <p>保健だよりや啓発・推進の掲示物を充実させ、タイムリーな情報を発信する。</p> <p>「美化充実期間」を設け、生徒の主体的な美化活動を推進する。</p> <p>清掃状況についての評価を伝え、それぞれの清掃に責任を持たせる。</p> <p>学校行事前後には清掃活動を強化し、校舎内外の精美を保持する。</p> <p>美化委員会による活動を機能的に行い、全校生徒の美化意識を高揚させる。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・日常の健康観察により、不登校傾向の生徒の把握や病気を早期に見つけることができたが、全クラスに提出させることが課題である。</p> <p>・教育相談は予定通り実施でき情報共有や有効活用につながっているが、生徒との十分な相談時間が確保できていないことが課題である。今後も情報の把握と連携を強化し、必要に応じては関係機関への受診を勧める。</p> <p>・熱中症予防講演会を実施したこともあり保健室から熱中症で病院移送した生徒はいなかったが、部活動では発生したため、生徒自身が予防と対応ができるよう自己管理能力を一層高める必要がある。</p> <p>・医送件数は14件と昨年度12件より増加傾向にあった。大きなケガや病気には至らなかったが、事故防止にどう繋げるかが今後の課題である。</p> <p>・各種点検・検査・清掃等は学校薬剤師や生徒保健委員会とともに定期的の実施した。次年度以降も学校薬剤師の指導内容から必要時、事後措置に取り組んでいく。</p> <p>・生徒保健委員会活動については、新たな取組を自発的に行い、文化発表会で発表するなど、主体的に取り組むことができた。また、夏季研修で学んだことも取り入れ、今知りたい伝えたいことをテーマに保健だよりや掲示物で情報発信を行った。</p> <p>・美化委員が、各クラスの美化活動推進に努めており、意識のある生徒が増加しているが、教師の側からのアドバイスで、自らが気づくような指導も必要である。また、さらなる意識の向上のためには、美化委員会を計画的、定期的で開催する必要がある。</p> <p>・ゴミの点検、分別に関しては、美化副委員長がよく努力しており、ゴミの減量化につながっている。正副美化委員長の交代の際に、しっかり引継</p>

		ゴミ捨て場での点検により、ゴミの分別を徹底させるとともに減量化を図る。	A			ぎをさせたい。 ・2回の「心を磨くトイレ掃除」については予定通り実施し多くの生徒が参加した。生徒の感想文からは、人間的成長を窺うことができた。次年度以降も継続実施していきたい。
		「心を磨くトイレ掃除」研修会を計画・実施し、謙虚・感謝の心を育む。	A			
企画広報	在校生・中学生・保護者・同窓会・地域社会に対し、積極的で、スピーディな広報活動を行い、魅力的な八女高の姿を発信していく。	情報管理課との連携のもと、ホームページを随時更新する。 ①校内の最新状況を各行事後4日以内に確実にアップする。 ②緊急メールを適時発信する。	A	A	A	・ホームページは、情報の提供分掌や部活動との連携がスムーズに行える体系づくりを検討したい。緊急メールは、情報管理課の協力を得て随時発信できた。
		ホームページの更新をする行事について、課内で共通理解を図る。	A			・ホームページの更新を行う内容について計画的に行うことができなかった。共通理解を図るため定例会議を開く必要がある。また、ホームページにアップする情報を効率よく収集し精選できるような仕組みを検討したい。
		魅力あるホームページを作成する。 ①各行事終了後、速やかに文章、写真を収集する ②企画広報課(情報管理課)担当で更新する。(更新後、課長に報告)	A			・効果的なDVDを作成するため前年度に内容を検討する必要がある。
		学校紹介DVDの作成。	B			・広報紙については予定通り発行できた。内容に関しては八女高生の魅力を伝え、さらに在校生の刺激になるものを作成したい。
		「八女高だより」の内容を精選し、校外配信を広げる。(2カ月に1度発行)	A			・掲示内容を学年や他分掌に依頼するなど連携を図り、さらなる有効活用を行いたい。
		校内掲示板の管理活用を図る。特に学年掲示版を有効活用し生徒の意識高揚につなげる。	A			・関係部署と連携し、あらゆる学校生活における画像・映像の収集ができるよう体系づくりを行う。
		「八女高ポスターカレンダー」を年に2回(6月、12月)作成・配布し生徒募集につなげる。	A			・生徒の活躍を地域の方々に効果的に発信できた。しかし、直前の対応になったこともあり、今後は事前に課内で計画を立てた上で取材依頼を行う。
		立て看板・横断幕などの効果的な活用を行う。	A			・生徒指導課の協力もあり各行事における企画広報課としての役割は果たすことができた。
		学校行事等を外部に発信する機会を増やすため、新聞社等への取材依頼を行う。	A			・予定通り発行できた。今後、PDF形式でホームページにアップすることも検討したい。
		各分掌と教職員の連携を図りながら、活動を支援し、諸行事の円滑な遂行を図る。	各分掌との打ち合わせを緊密にし、学校行事等を計画・実施する。			A
月行事予定表を毎月15日に配付(2ヶ月分)し、職員・生徒の有効な活用を促す。	A		・次年度も給湯室や印刷室など、企画広報課で意識をもって整頓を促したい。			
PTA各委員会の会議や活動に全職員が参加し、PTA活動をより充実したものにするとともに保護者との交流に努める。	A		・月当番の協力もあり会場等も早めに確保でき円滑に運営できた。次年度も継続していく。			
職員室の整理整頓を促し、教職員の働きやすい環境作りに努める。	B					
月当番を決定し、親交会行事運営の支援を行い、職員間の親睦を深める運営を行う。	A					
情報管理	「主体的・対話的で深い学び」が実現できるICT環境の整備と授業支援	教師と生徒がICTを授業の中で手軽に活用できるように、環境整備と授業支援を充実させ、全教員がICTを活用した授業を最低でも1時間実施できるようにする。	A	A	A	・授業中のICT機器の不具合に対応ができない場合があった。授業への入念な準備の呼びかけや情報管理課における機器の点検を徹底する。
		「電子黒板活用実証研究事業」がよりよいものになるように、研修会の実施と授業実践の提示を適宜行い、電子黒板活用に対する意識向上を図る。	A			・2学期末までに、教科別の研修会を実施できた。教科に沿ったICTの活用方法や、要望等の意見交換ができ有意義なものとなった。
		「公開授業期間」にICTを活用した研究授業を実施し、教科全体でICTを活用した授業改善について考える機会を作る。	A			・ICTを活用した授業を研究授業で実施し、研究協議の中で活用のメリット・デメリットについて話し合うことができた。次年度も継続して実施する。
	学年・他分掌との連携による円滑な校務への手助け	各課・各学年の担当者と密に連携を取り合い、複数人が作業できるように支援をしていく。	A	A	A	・各課・各学年の担当者と密に連携をとることができており、滞りなく校務を遂行することができている。次年度も継続していく。

	校内のあらゆるデータと情報機器データベースの管理の徹底	個人情報及び校務情報の流出防止のために校内での情報セキュリティポリシーを確立し、各職員が守るべき重要情報を明確にするとともに、それを守るための操作手順の遵守を徹底させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での情報セキュリティポリシーに則って重要情報の保護に努めることができた。引き続き全職員の意識向上に努めていきたい。</li> <li>・夏季休業中に情報機器を確認して、データベースの更新を実施できた。</li> </ul>
		「生徒マスター」ファイルをはじめとするマスターデータのデータベース化と、定期的な更新を行い、正確な資料の提供を行う。	A		
		県統一の情報機器データベースを確実に更新し、しっかりと管理ができるようにする。	A		
1学年経営	八女高生としての基本的な生活習慣を確立させる	学校内外の生活場面に即した挨拶ができるようにする	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の形をつくることはできたが、今後、校外など場面に即した挨拶ができるように指導を継続していく。</li> <li>・課外授業や土曜セミナーの出席状況は良好であったが、引き続き一人ひとりが意識して行動することが全体に影響を与えることを理解させながら指導を継続する。</li> <li>・「美化充実期間」の結果や「心を磨くトイレ掃除」研修会への参加状況も良く意識の高い生徒も多いが、今後も学年全体で「気づき」の指導を行っていく。</li> <li>・慣れや気のゆるみから事故が多発した。余裕のある登校を呼びかけながら個別指導や家庭との連携を図る。</li> <li>・出席皆勤率は70%である。今後も、本人の自己管理意識を高めながら保護者との連携を図っていく。</li> </ul>
	授業、行事のチャイム開始と、課外、土セミの出席を徹底させる	A			
	指定された区域の清掃を、個人、グループ、クラスの責任として確実に行わせるとともに、学年団の共通認識のもと、全員で、日常的な服装・頭髪（身だしなみ）指導を行っていく	B			
	部活動への加入を奨励し、学業との両立を目標に精神的な逞しさを育成する	A			
	余裕のある通学と、人に迷惑をかけない交通ルールとマナー遵守の指導を行い、事故「0」につなげる	B			
	自己管理の意識を高め、出席皆勤率「70%以上」を目指す	A			
学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る	年度当初に国数英の学習ガイダンスを充実させ、家庭学習の進め方を身につけさせる	A	B		
	必然性を意識した学習と先んじた取組を行わせていくなかで、家庭学習時間は平日150分、休日300分を目標とし、最終的には家庭学習時間平均180分以上を目指す	B			
	授業時の反応および小テスト、考査、模試の結果をもとに授業改善を図っていく	A			
	早期からの成績上位者への添削指導や成績下位者に対する継続的な指導を行い、学年最終模試の目標を、3教科総合および数学で差値54ポイント以上を100名以上、50ポイント以下を50名以下とする	B			
	教科内、教科間の連携をとり、実態に応じた計画的な課題提示を行う	B			
学校の活動に積極的に参加し、集団に貢献する人間性を培う	大運動会の運営をはじめ、行事には積極的に参加させ、帰属意識を高める	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形で行事に関わり、積極的に取り組むことができるようになってきた。次年度は、学校の核となり行動できるように早めに個別の呼びかけや掘り起こしを行っていく。</li> <li>・リーダー的な役割を果たすことのできる生徒がまだ存在しておりリーダーシップを発揮する場面や機会を設定する。</li> <li>・「学習と生活の実態調査」を通して家庭での生活の様子等を把握することができた。今後、スクールカウンセラー等の外部資源の活用も必要である。</li> <li>・生徒の発言の場を作ることができなかった。コミュニケーション能力の低い生徒も増加傾向にあり、粘り強く個別に対応する必要がある。</li> </ul>	
	部活動や委員会活動に積極的に取り組ませ、集団内でのリーダーシップを育む	A			
	クラスや組織・集団の活動の中で、周囲に配慮し、進んで責任を引き受ける態度を培う	A			
	ホームルームにおける生徒の発言の機会を増やし、コミュニケーション能力の育成を図る	B			
	二者面談や日常の会話を通して生徒との信頼関係の構築に努めるとともに、問題等を抱えている生徒の指導には、保護者及び教員相互の情報交換に努め、共通認識のもとあたっていく	A			

2 学年経営	八女高生としての生活習慣ならびに自己の目標達成に向けた生活習慣の確立	自己管理能力の更なる向上に取り組み、出席皆勤率70%以上を目標とする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7割を超える生徒が無欠席であり、良好であった。家庭の支援もあり、ほとんどの生徒が八女高リズムの規則正しい生活を送っており、今後も継続したい。</li> <li>・目標設定（学習・部活・行事・進路）については、面談等を活用しながら概ねできている。達成に向けても早朝学習や早朝練習に取り組む姿が多数見受けられる。最終学年を迎えるにあたり、長期目標や進路目標の達成を視野に入れた生活を確立させていきたい。</li> <li>・挨拶、ルール遵守（時間・規則・期限）、言葉遣いについては、一定の成果が見られる。次年度は、もう一步のレベルアップを図りたい。特に、言葉遣いについては、場に応じた使い分けの指導が必要である。</li> <li>・保護者との連携については、指導に対する理解とともに、生徒の状況に応じて行うことができおり、今後も継続していきたい。</li> </ul>
		自己の具体的目標（学習・部活・行事）を持たせ、その達成のための生活（リズム・習慣）を確立させる。	B			
		ルール遵守指導（時間・規則・期限） ・5分前行動の習慣を定着させ、物事に余裕を持って取り組ませる。 ・職員で一貫した服装・頭髪・交通指導を行う。 ・期限を守らせる。（提出物等）	A			
		マナー指導 ・挨拶指導（心を込める） ・言葉遣い指導	A			
		保護者との連携による指導 二者面談・三者面談等を充実させ、家庭との連携を十分に図り、規則正しい生活の定着を図る	A			
	学習習慣の確立と基礎学力の向上と定着	指導内容・指導方法の工夫改善に取り組み、適切な現状把握と計画的指導を行う。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科とも定期的な打合せにより、進度等の調整を行い「わかる授業」の展開に積極的に取り組むことができた。また、観点別評価を踏まえた指導や模擬試験の分析から弱点を補強する指導等に取り組んだ。今後も継続していく。</li> <li>・習熟度クラス、習熟度別授業により、生徒の実情に合った指導ができた。今後も継続していく。</li> <li>・学習時間が昨年度と比較しても増えていない。進路意識を向上させ、進路実現に向けて学習時間を増加させていく指導を行っていく。</li> <li>・模擬試験の結果については、教科内の連携により上位層の目標は達成することができた。今後、上位層の添削指導の充実と下位層の底上げを継続的に取り組んでいかなければならない。</li> </ul>
		教科内ならびに教科間の連携・連絡を密に取り指導にあたる。	A			
		各種調査（スタサポ、進路希望、学習時間等）やアンケート、面談を生かし、的確な状況（生活・健康・学習等）把握に努め、適時指導する。 ・家庭学習時間…平日150分 休日300分を目標とする。	B			
		模擬試験数値目標の設定 ・3教科総合において、国公立大学合格の目安である進研模試54以上の目標を100名以上、下位層（偏差値50未満）の目標を50名以下とする。	B			
		上位者への添削指導等を実施する。	B			
	社会性の育成	各種講座による指導 ・養志講座 （目標設定・規範意識の向上・道徳的価値観の育成・愛校心育成） ・先生方からの講話（HR・学年集会・学年通信等）	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講話や講座を通して、よい刺激を受けたことで意識向上が見られた。今後は、抱いた気持ちを持続させる指導が必要である。</li> <li>・委員会活動や学校行事を通してリーダーの育成につながっている。</li> <li>・生徒会を中心に、中核の学年として自ら考え率先して活動できた。特に、文化発表会では意欲的に取り組んだ。今後も、上級生としての意識や他人への配慮等について継続的な指導が必要である。</li> <li>・与えられた役割は責任を持って果たしているが、今後はそこから「充実・発展」といった「発想や行動」ができるよう促すなど、自ら考え、行動する主体性を育成したい。</li> <li>・清掃活動には日頃からよく取り組んだ。仲間と助け合うことや身の回りの物など、人や物に対する感謝の気持ちを育成するとともに、献身的な態度を育てていきたい。</li> </ul>
		リーダーの育成 ・学年集会、HR等において、自主的活動の場を多く提供する。 ・外部事業への派遣による育成 （次世代リーダー養成塾、知の創造塾等）	A			
		学校の中軸として自覚を持たせ諸活動に取り組ませる。 （部活動・学校行事）	A			
		責任感と主体性の育成および充実感・達成感の体感 ・委員会活動・係業務の状況を適時確認し、責任を持って行わせる。	B			
		清掃活動や行事等を通して、献身的な態度を育成するとともに、学習環境を整え、落ち着いた生活を送らせる。	B			

3 学年経営	社会性を育成し、八女高の最高学年として自覚ある行動をさせる。	八女高の最高学年であることを自覚させ、学校行事に責任を持って積極的に取り組みせ、充実感・達成感を持たせる。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大運動会等の学校行事において最高学年としての役割を果たすことができ、充実感・達成感を持たせることができた。また、部活動等においてもリーダーシップを十分に発揮することができた。</li> <li>・多くの生徒が時間や規則をきちんと守ることができた。また、細かな点まで丁寧にかつ熱心に掃除に取り組むことができた。</li> <li>・生徒一人ひとりが他人を思いやる心を持つことができた。</li> <li>・交通事故が昨年より増加したため学年集会などで継続して指導を行った。</li> </ul>
		部活動・委員会活動・係業務に責任を持って主体的に取り組みせ、下級生の模範となるリーダーを育成する。	A			
		学年集会・HR等において、生徒が自主的に活動する場を作りリーダーシップを養い、自分に関わるすべての人に感謝し、他人を思いやる優しい心を育成する。	A			
		ルール・マナー（時間・規則・期限・交通）の遵守指導や職員の貫いた服装頭髪（身だしなみ）の指導を継続して行い、規範意識・道徳的価値観を向上させる。	B			
		清掃活動を通して、奉仕の心を育成するとともに、学習環境を整備し落ち着いた学校生活を送らせる。	A			
	受験生としての生活習慣を確立させる。	自己管理能力をさらに向上させ、受験生としての生活リズムの確立させ、出席皆勤率70%以上を目標とする。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席皆勤率は65%を超え、無欠席率も70%を超えるなど、進路実現のために自己管理を行い生活することができた。</li> <li>・二者面談を活用し、生徒の実態を把握しながら指導することができた。</li> <li>・担任と養護教諭及び保護者との連携が図れており、担任会を中心に学年で生徒の情報を共有することができた。</li> </ul>
		5分前行動の習慣を定着させ、物事に余裕を持って取り組みせるとともに、心のこもった挨拶や校門一礼、場に適した言葉遣いができるように指導を継続する。	B			
		個人面談を充実させ、家庭との連携を十分に図り、規則正しい生活の定着を図る。	A			
		学校生活に問題を抱える生徒について、保護者や養護教諭と連携を図り、学年全体で情報を共有して適切な指導を行う。	A			
	志を高く持たせ、その実現に向けた学習習慣を定着させ学力の向上を図る。	個人面談を充実させ、自分の将来について考えさせ、高い志をもたせる。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談によって進路を明確にして、自信を持って進路を実現をさせることができた。</li> <li>・学習時間調査結果では、2学期以降学習時間が増加し学習習慣も定着した。</li> <li>・ICTを活用した授業やアクティブ・ラーニングなど多くの授業で工夫が見られた。</li> <li>・習熟度別クラスを活用し、指導内容を工夫して授業を行った。特に、「数学Ⅲ」においては効果的であった。次年度も継続したい。</li> <li>・教科内での調整は十分に実施することができたが、他教科との調整や文系クラス、理系クラスでそれぞれ重点を置くべき教科の戦略に課題が残った。次年度へ向け改善する。</li> <li>・習熟度別クラスとして難関大学を意識した指導については各教科で工夫して実施できた。また、成績下位者に対しては補講を計画的に行ったことにより成果が得られた。</li> </ul>
		国公立大学合格100名以上、公務員コース全員合格を目標とする。（難関国立大学10名以上、国公立大学推薦・A0入試15名以上）	B			
		進研模試の偏差値については5教科総合で50以上に100名以上、習熟クラスについては、5教科総合で平均偏差値63以上を目標とする。	B			
		生徒の学習状況や健康状態の把握をして、早朝学習や居残り学習などを推進し、平日200分以上、休日400分以上の家庭学習時間を確保させる。	B			
		「できる授業」を展開するため、学力に応じた（習熟度別クラス等）指導内容・指導方法の工夫を図り、学習意欲を向上させる。	A			
		進路実現に向けた学習ガイダンスを充実させ、教科内や他教科の担当者との連絡を密にして、進路実現のためのバランスが取れた学力を身につけさせる。	B			
		難関大学受験希望者に対して添削・課題などの指導を行う。また、成績下位者に対して定期考査前に補講計画を立て実施する。	A			